

センター試験 英語問題総評



駿台予備学校・洛南高等学校講師 竹岡 広信

センター試験総評

真偽は定かではないが、聞くところによるとセンター作成部会は日本人10名と英米人10名の委員からなり、2年が任期とのこと。今年はメンバーを一新した作問のはずで、どのような出題になるのかを楽しみにしていた。特に昨年の文法・語彙問題に出題された close down「閉店する」/ run in the family「家族の血に流れている」、また読解問題に出された「英英辞典の素晴らしさ」等の今後の英語教育に対して示唆的な問題が踏襲されるかどうか注目していた。しかし蓋を開けてみるとセンター試験らしからぬ「雑で陳腐」な設問が数多く見られた。歴代のセンター作成部会のメンバーは、英語教育の前進を阻害する問題集や参考書や単語集の中に見られる、日本人が長いあいだ気づかなかったミスや不適切なものを取り上げ、それを是正してきた。その問題の中には、日本の英語教育を良くしたいという気概が感じられた。今年の作成部会のメンバーは、今後、このような気概を是非とも踏襲して頂きたい。

なお、解説中に登場する〔正解率〕は、今年実際にセンター試験を受験した生徒にお願いして調査したもの。母集団はおよそ60名で、英語筆記テスト200点満点の平均点はおよそ162点の集団(竹岡のセンター試験対策を9月から週1回受講した予備校の生徒)の正解率である。

設問別講評

第1問 A (資料1) 〔正解率〕 問1 90.2%
問2 77.0% 問3 82.0% 問4 72.1%

〔解説〕 昨年は comfort という語を取り上げ、日本人の弱点である「アクセントのない音は曖昧音が原則」ということを扱った面白い問題であった。ところが、今年は拙著の中経出版のセンター対策本の練習問題のような問題であった。実際、通常授業や冬期講習会でも力説した問題ばかりで、おそらく高等学校の現場でもセンター対策として扱われた「普通の」問題ではないだろうか。

〔対策〕 基本的な発音を原則と例外に分け、体系的に指導したい。

第1問 B

〔正解率〕 問1 90.2% 問2 78.7% 問3 78.7%

〔解説〕 アクセントも非常にオーソドックスな問題で、真面目に勉強してきた受験生は正解したものと思われる。これは良い傾向であろう。今年は文強勢問題が姿を消した。

〔対策〕 アクセントの原則を徹底し、普段から関連づけて(たとえば damage を発音するときには image, message, manager などと一緒に)教えるようにしたい。これは第1問以外にも言えることだが、センター試験の問題形式の変更など無視して、どのような問題にも対応できるオーソドックスな文強勢の基本を網羅的に取り扱うべきであろう。

(資料1)

第1問 A

下線部の発音が、ほかの三つの場合と異なるものを、それぞれ①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | | | |
|----|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 問1 | ① <u>boot</u> | ② <u>goose</u> | ③ <u>proof</u> | ④ <u>wool</u> |
| 問2 | ① <u>breadth</u> | ② <u>faith</u> | ③ <u>length</u> | ④ <u>smooth</u> |
| 問3 | ① <u>earn</u> | ② <u>heart</u> | ③ <u>pearl</u> | ④ <u>search</u> |
| 問4 | ① <u>leisure</u> | ② <u>measure</u> | ③ <u>physics</u> | ④ <u>vision</u> |

第2問A(資料2)

問2 [答え] ③ [正解率] 50.8%

[解説] 従来から過去問題のダミーの選択肢を用いた問題作成は存在した。しかし昨年出された問題([参考]問8:正解は①)にある選択肢を正解にするというのは共通一次、センター試験の約30年の歴史でも極めて例外的なことであろう。来年は今年のダミーである activate でも出題されるのであろうか。たとえば新幹線のぞみ号 N700 系のトイレ表示: The smoking or the use of a lighter will activate the fire alarms. 「喫煙やライター等の使用により火災報知器の大きな警報音が鳴ります」はどうだろうか。

問3 [答え] ④ [正解率] 23.0%

[解説] by と until との違いを尋ねたセンター試験にはよくある問題だが、正解率が非常に悪い。by を選んだ学生が 19.7% なのに対して、on を選んだ学生が 54.1% に達したのは驚いた。日本語では「次の水曜日に延期した」と言えるからであろう。

postpone や put off 等を指導する際には注意し

たい。

問4 [答え] ③ [正解率] 6.6%

[解説] 「言う」関連では、speak / talk は原則自動詞、say / tell は原則他動詞の基本が守られていた。確かに、昔のセンター本試験の語句整序問題で talk + 人 + into ~ が出題されたことがあったが、talk him を一つの選択肢にし、他の部分から解けるような配慮がしてあった。今年の問題は、確かに I was talked で始めることで、この talk が例外的に他動詞であることを暗示していることは認める。しかし I was talked to by ~ という形も十分に考えられる。

作成部会は、talk は talk about ~ よりも、この例外的な talk + 人 + into / out of ~ の方が大切だと言いたいのであろうか。ちなみに選択肢①の about を選んだ学生は 60.7% に達する。

問7 [答え] ④ [正解率] 60.7%

[解説] 「18年前の名曲が、酷い形でリメイクされた」という感じである。1992年に出版された問題([参考]問3:正解は④)は良問であった。なぜなら、

(資料2)

第2問A

次の問いの空所に入れるのに最も適切なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問2 I have to get my commuter pass renewed because it [] tomorrow.

- ① activates ② conceives ③ expires ④ interferes

問3 Is it possible for you to postpone today's meeting [] next Wednesday?

- ① by ② in ③ on ④ until

問4 I was talked [] buying a big car by my sister.

- ① about ② away from ③ out of ④ to

問7 "Why did Jack quit his job?"

"He wanted to [] his dream of opening his own café."

- ① come true ② increase ③ make sure ④ realize

問10 After many years of war, the country has lost much of its power. [], its influence should not be underestimated.

- ① Even so ② Even though ③ So ④ Thus

[2010年度センター本試験]

[参考]

問8 I've heard that in the U.S. smoking is [] in public places such as restaurants or cafés. Is that true?

- ① banned ② expired ③ valid ④ withdrawn

[2009年度センター本試験]

問3 She had dream of becoming a movie star even though she didn't know how to [] it.

- ① act ② become ③ play ④ realize

[1992年度センター本試験]

その当時の参考書には「one は a + 名詞を受ける(正しくは、置き換え可能)」と間違っただけの記述がしてあるものがあり、さらに単語集では realize は第一義に「悟る、理解する」と書いてあるものが大半であった。よって 1992 年度のこの問題はそういった間違っただけの受験常識を正すという意味で良問として評価された。

問 10 [答え] ① [正解率] 18.0%

[解説] 前半の内容「その国は長年の戦争でその力の多くを失った」と後半の内容「その国の影響力を過小評価することはできない」から、Even so 「たとえそうでも」を選べばよい。Even though を選んだ者が 41.0% いる。though は確かに副詞として「にもかかわらず」の意味で使うことは可能だが、even though の場合の though は接続詞の用法しかない。So と Thus は似たような意味だが、これを選んだ者はそれぞれ 19.7% と 21.3% もいた。

[その他正解率] 問 1 42.6% 問 5 95.1%

問 6 98.4% 問 8 90.2% 問 9 75.4%

第 2 問 B

問 2 [答え] ③ [正解率] 90.2%

[解説] 最後の My lips are sealed. 「口を閉ざしておく」と between you and me 「ここだけの話だが」の意味が分からないと解けない問題。従来のセンター試験の問題は、日本人の間違いやすいポイント (Yes, No などの区別) が重点的に出題され、非常に示唆的な問題であったが、今年の会話の問題は異質である。選択肢④の「急いで事はし損じる」にいたっては、亡霊の復活の感じがする。このことわざ自体は使うとしても、わざわざ haste という日常では使わない単語を含む選択肢を作るのが妥当かどうかは疑問である。

問 3 [答え] ① [正解率] 95.1%

[解説] 選択肢②と④は英語として意味をなさない。このような選択肢自体が間違っているのはセンター試験の会話問題では初めてのことでないだろうか。日本語では「水と油が喧嘩する」と言えるから、というのは分かるが、従来の極めて慎重に作られた問題からは大きく外れている。

[対策] センター試験の過去問の会話文を 3, 4 回繰り返しやっておきたい。なお、会話文の弱い生徒はリスニングで戸惑うことが多い。よってリスニング対策も兼ねているということを忘れてはならない。

[その他正解率] 問 1 60.7%

第 2 問 C [正解率] 問 1 88.5% 問 2 85.2%
問 3 93.4%

[解説] 昨年文脈が追加され、「パズル的に解く」のではなく「何が言いたいのか」を考えさせる傾向が強まった。今年もその傾向を踏襲し、問 3 では選択肢が七つになるなど形式上での変更はあったが、内容的には従来のセンターに見られる「切れ味」は皆無であった。さらに問 2 の問題文にある your friend は、a friend が適切であろう。

[対策] 語句整序は、「パズル的な解法」ではなく「この文が言いたいことは何か」を常に考えながら解くことが大切。高校 2 年生ぐらいから、過去問題 100 題程度を 3 回ほど反復すれば効果が高い。

第 3 問 A

問 2 [答え] ③ [正解率] 82.0%

[解説] 選択肢①は be careful with, ④は vintage jeans が her なら正解になりうる。こんなに根拠の薄い問題をなぜ出題するのであろうか。まさか受験生に「have a penchant for という熟語は覚えておくこと」というメッセージなのだろうか。

[対策] 昨年書いた文を引用する。この問題の狙いは、英語特有の「言い換え」を確認することである。特に問 2 は、パラグラフリーディングの基本となる「1 パラ 1 アイディア (= 一つのパラグラフには一つの考え)」→「同じ語句の繰り返しを避けて言い換える」を徹底させようとするものである。日本語は同一語句の繰り返しでも問題ない場合が多いが、英語ではそれが徹底的に排除される。同一パラグラフ内でも「言い換え」に気がつかない生徒が多いのは、このような文章を書く上での暗黙の了解が分かっていないからだと思われる。英語を読む際に、「言い換え」を常に意識すること。たとえば war, fight, battle はそれぞれ意味が異なるが、同一パラグラフ内では同じ意味を表すこともある。

[その他正解率] 問 1 73.8%

第 3 問 B [正解率] 29 73.8% 30 100%
 31 57.4%

[解説] 29 は悪問である。Mr. Johnson の主張は「年配の人を相手にする場合、人は話し方を変える」ということであり、医療従事者の例は具体化にすぎない。正解の③は、その具体例を表しているに過ぎず、英語の出来る真面目な受験生は悩んだであろう。 31 の答えも Ms. West の主張からはズレており、受験生は戸惑ったようだ。

第3問C [正解率] 32 90.2% 33 90.2%
34 90.2%

[解説] この問題はここ10数年で様々な問題形式に変化しているように見えるが、尋ねているポイントは一貫している。英文を読む上で必要なポイントは、①抽象的な表現から具体的な表現へ ②butなどによる逆接の確認 ③代名詞, this, so, suchなどの指示詞に注目する, の3点である。なお、扱われているポイントは、2007年は③/③/①、2008年は③+②/①/①、2009年は①/①/①で、2010年も①/①/①あった。

[対策] 「オリジナルセンター用問題集」を見ると、上のポイントが出題されておらず、「なんとなく内容から解けてしまう」ものが多い。とにかく、普段の英文解釈から上記のポイントを頭に置いて読むべきであろう。「形式だけは同じだが内容が伴っていない問題集」よりは、形式の異なる過去問題の方が有効であろう。

第4問A

[正解率] 問1 95.1% 問2 78.7% 問3 96.7%

[解説] この問題は従来通りの良問である。形式に大幅な変更はない。正解の選択肢以外は「本文に書いてない記述」だから、消去法を徹底すればよい。問2の正解率が悪いのは、「付帯状況のwith」を用いたwith traditional architecture and gardens in second and in third placesという箇所が難しかったからであろうと推測される。

[対策] 図表を苦手とする生徒は意外と多く、特に地理選択でもなく理科系でもない場合にはその傾向が強いようである。やはり、過去問題を十分にやることで「慣れる」ことがいちばんである。

第4問B

[正解率] 問1 95.1% 問2 93.4% 問3 93.4%

[解説] 飛行機の席の空き状況を知らせる表を見て、設問に答える問題。power supply「電源」、policy「約款」などの語が難しい。

[対策] 短時間で必要な情報を素早く見つけるための訓練が必要。TOEIC関連の問題集も効果的である。

第5問 [正解率] 問1 86.9% 問2 91.8%

問3 75.4% 問4 80.3% 問5 88.5%

[解説] 真情報と偽情報を識別する問題。ここ2年間は2題であったものが1題に変更された。非

常に面倒な問題だが、日常語を多数含んでおり好感の持てる問題であった。問3の出来が悪いのは、本文にあるI think the truck may have moved slightly to stay away from the car, but I'm not sure — I couldn't take my eyes off the car。「トラックはスポーツカーから離れるために少し動いたかもしれませんが。ただ自信はありません。ずっとスポーツカーばかり見ていましたから」の部分が十分に理解できなかったからであろう。

[対策] 日常生活では普通に使われている語彙を意識的に増強するようにしたい。以前名古屋大学の英作文の問題文の中に「机の下にもぐる」というのがあったが、これをget under a deskと書けた生徒がほぼ皆無だったことがある。このような何気ない表現に受験生は弱い。こうした日常的な語彙もできるだけ増やして欲しい。

第6問 [正解率] 問1 95.1% 問2 85.2%

問3 59.0% 問4 65.6% 問5 75.4%

問6 86.9%

[解説] 全体を読んで主旨をつかみ、その方向性を考えて解けば良い問題である。従来の物語・エッセイが出題されているところから、センターの長文は「全体のテーマ」を考えて解く問題であったが、一昨年からこの傾向が明確になった。昔から、長文読解と言うと、「一つのパラグラフを読んだら問1を解きましょう」とか、「答えは第何パラグラフの第何文にあります」などの、「本来の読み方」に逆行するような問題集や指導が横行していた。よってセンター試験は、第3問の延長として、「パラグラフ全体→文全体」を捉えさせるための問題として、この第6問をリニューアルしたのである。全体を読んで方向性をつかみ、設問は最後に一気に解く、という「正攻法」が大切である。今年の問題は、「子どもと大人という区別が最近のものである」という興味深いものである。問3は選択肢④のall studentsのallを無視してこれを選択したものが31.1%いる。また問4は選択肢③のtoo quicklyのtooを無視して、これを選択したものが23.0%いた。